

# 「知ることが今できる支援」

カンボジア訪問 高校生が報告会 室蘭



海星学院で行われた「高校生・アジアの架け橋養成事業」

## 海星学院の大谷さんら 途上国の課題訴える

北海道国際交流・協力総合センター主催の「高校生・アジアの架け橋養成事業」に参加した生徒の報告会が7日、室蘭市高砂町の海星学院高校(香川謙二校長、210人)で行われ、同校の大谷優生さん(16)ら5人が途上国の現状と課題、自分たちができる支援を発表した。

同事業はアジアの開発途上国に高校生を派遣し、現地の課題に理解を深め、国際感覚を養い海外に目を向けて活躍する人材の育成を目的としたプログラム。今年で5年目。

大谷さんら道内の高校生10人が8月3～10日の日程でカンボジアを訪問。報告会は、大谷さんはじめ参加した5人が同国の風土や文化、貧困や地雷の問題、歴史についてそれぞれ発表した。

大谷さんは、経済的な理由などで親と暮らせない子どもたちを預かる児童養護施設について報告。子どもたちと笑顔で交流したが、親に甘えることもできない子どもたちのつらい立場も紹介した。

両親が常に身近にいる自分たちと比べ「理解してくれる人の存在に感謝したい。路上生活の子どもたちに食べ物もあけても貧困は解決しない。現実を一人でも多く伝え、知ってもらうことが今できる支援」と訴えた。生徒らは報告に耳を傾け、途上国の課題を考えていた。(菅原啓)